

平成29年度 坂城高等学校 学校評価報告書

学校運営方針： 地域と社会に貢献する人材の育成  
豊かな知性と情操を身につけ、地域・社会の有為な構成員となる健全な人格の育成を期する。

NO	重点目標	項目	評価項目	自己評価	評点	評点	学校関係者評価	改善策
1	学ぶ楽しさを実感し、進路の希望を実現できる学校づくり	1-1	わかる授業の実践による基礎学力の定着	今年度も1年生数学の1授業、2、3年生選択授業での習熟度別授業や少人数編成授業などにより、個々の生徒にきめ細やかな対応することができた。また、授業アンケートの結果を受けて、教科会で検討する時間や職員研修会を行い授業改善の取り組みがすすめることができた。ICT活用授業については、課題としてハード面(機器)とソフト面(使い方)を図る必要がある。生徒が興味を持ち魅力ある視覚に訴える授業、体験型授業等工夫を積み重ねていく。	2.7	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力をしっかりとつけられたい。就業体験は物の見方や考え、将来の自分を高める上で望ましい学び方である。自分の目ざす生き方を持ち、自分にあった進路・就職を。</li> <li>進路決定者が多いことは、指導の賜物と考えられる。この先も時代の変化が読めないことが多くあると思うが、基礎作りは引き続きしっかりとやらせてもらいたいと思う。</li> <li>進路指導における就職内定率100%は大いに評価できる。</li> <li>学び直しにより社会人としての資質を育てていただいている。今後もキャリア教育を中核に社会人としての力を育ててほしい。</li> <li>就業体験のように自らが体験し、気づき、学んでいくことが大事。雇用情勢が好転しておりますが、反面ミスマッチの無いよう良くご指導ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通したキャリア教育の充実を図るために、新教育課程で、1学年の新教科「産業社会と人間」を導入した。1年次の保育体験、2年次のインターンシップを核として各自のライフプランを構築できるように体系的、継続的に実施していく。</li> <li>授業内容の充実のために、研修、授業交流、生徒からの授業評価などを引き続き行う。</li> <li>コアスタディに替わり、1年次の数学、英語について少人数講座を編成し基礎学力の定着を図っていく。</li> <li>教室のユニバーサルデザイン化をすすめ、教室の環境整備に努める。</li> </ul>
		1-2	将来を見据えた教育課程の構築	1、2年次必修科目「産業社会と人間」の中でも、特に2年次で行っている就業体験は生徒の職業意識を高めるうえで効果的である。その効果を検証しながら、より魅力的で特色ある坂城高校らしい学びができるよう学習過程の研究・改善を図ってきたい。				
		1-3	特徴ある総合学習の構築	3Cを核とした総合学習は定着している。特に「産業社会と人間」により、総合学習の一層の継続性と一貫性を持たせ、「キャリア教育」を中心とした総合学習を展開している。新たな社会を創造する力社会性を高めるための(PDCA)検証・改善を図りたい。生徒につけたい学びをより明確にしていきたい。				
		1-4	進路指導の充実	3年生の就職状況は、全般に好調で全員が内定をいただいた。また、産業カウンセラーによる3年生、2年生の就職希望者全員への面談や面接指導をしていただいた。進学については、さらに手厚い個別指導などを行い、4年生大学、国公立大学に挑戦するような意欲のある生徒を育て、学力向上を図ることが今後の課題である。				
2	落ち着いた生活のできる校風づくり	2-1	基本的な生活習慣の確立	新入生が少しでも早く学校生活に順応できるよう入学当初の4月に昨年より通年指導を行っている。また、4月に実施していた家庭訪問を7月に移し、4月は6時間しっかり授業を行い、その間にLHRや学年集会で、1年生の指導に多くの教員が関わるようにした。今年度は、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で学校生活をスタートさせることができた。課題としては、全学年に遅刻の多い生徒が何名かおり、けじめのある生活ができるよう常に指導していき必要がある。	2.8	2.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活のルールを守り、社会人となったとき失敗しないような生活の学び、体験されたい。キャリア教育は望ましい。</li> <li>地域に打ち解け、地域学でのルールを理解できる者が増え始めていると感じられる。学校生活からマナーが良くなってくれれば幸いである。</li> <li>自己管理、自己責任がこれからは益々必要となることで、小さなルールから守ることの重要性を指導継続を。</li> <li>きめ細かく生徒指導により落ち着いた学校になっている。部活が活発になると学校に勢いが生まれる。期待したい。</li> <li>1年生から3年生まで各学年ごとに成長の跡が見受けられますが、基本的な生活習慣についてさらに工夫して指導を行っていただければと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活のルールについては、全職員が共通理解した上で、職員により生徒への指導に差が生じないように努める。また、授業開始前には必ず服装・携帯をチェックを行い、授業に入ることを徹底する。</li> <li>生徒の駅・通学路マナーの向上と交通事故防止のため、各種巡視(朝の登校指導・昼の立ち番・授業開始前の巡視当番)は継続していく。</li> <li>また、早退・外出する場合は必ず担任に報告し、許可を得る(「早退・外出届」)指導を徹底する。</li> <li>悩みを抱える生徒や特別な支援が必要な生徒が増す中で、常日頃から生徒の表情や様子を含め細かく観察し、些細な出来事にも軽視することがないよう、職員間の情報共有を図りたい。</li> </ul>
		2-2	安心して学べる環境と集団作り	校訓である「心を込めて 心を研ぎ 心輝く」を通して、心の教育を更に充実させていきたい。生徒が本校で落ち着いた環境の中で安心して学習ができるようにしていきたい。また、多様な生徒が多く在籍していることから教員研修の充実、支援体制の強化、対処方法の検討をさらに進め生徒が必要としている支援ができるようにしていきたい。イジメや友人間のトラブルなどについては、さらに細心の注意を払い、早期事態把握、対応に努めていきたい。その他に体罰防止・非道行為の根絶のための研修も引き続き行い、徹底を図りたい。				
		2-3	交通ルール・マナーの向上	年間通して、朝の校門付近や通学路での立寄指導、マナーの向上の呼びかけを行った結果、以前に比べて落ち着いたマナーは向上してきた。今年度は、地域からの苦情も減っており、指導の効果が表れてきた。本校の心を込めて、心を研ぎ、心輝くの校訓のもと、地域で活躍できる人になれるよう指導していきたい。				
		2-4	個々の生徒に応じた指導姿勢作り	生徒相談態勢は、支援が必要な生徒に対する個別の指導計画の立案を行ない、外部機関との連携をとっている。また不登校生徒やコミュニケーション支援を要する生徒に対して将来の進路に向けて適切な指導を行うため、就職アドバイザーを配置している。前述の発達障がいとその疑いのある生徒についても、教員間で情報共有し、適切な対応連携が図れるようになってきた。				
3	生徒1人1人が自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり	3-1	HR・行事を通じた人間形成、集団作り	修学旅行をはじめとした各行事を通して、生徒の成長を促す取り組みを行っている。行事への参加の意欲も高く、取り組みもよい。今後は学年やクラスを中心に独自の行事を行う場を増やして行きたい。今年度は2年生が県の県立大会で優秀賞をいただき、他にも多くの生徒が地域活動に積極的に参加したことから教員の成果がでてきていると考えられる。	2.7	2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立的な自分づくりの機会や場づくりをし、人間形成をされたい。</li> <li>生徒会、クラブ活動、視察見学、社会人活動見学等、積極的参加</li> <li>あらゆる生活の場がイコール社会である。成長するにつれ社会の一員としての自分の役目が活動から理解されてきている結果と推測する。</li> <li>坂高のイメージアップを短期的に図る方策として、クラブ活動のさらなる活躍を期待、工夫を。</li> <li>生徒会活動は活発に運営されている様子が窺えます。極力、全員参加となるようご指導ください。</li> <li>生徒会役員のみならず、地域貢献する生徒が増えればよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、クラブ活動への参加の向上を図り、活躍しているクラブはさらに充実できるように、また文化部を含めて他のクラブの活動内容の向上に役立つような手立てを考えたい。</li> <li>学年やクラスの活動を通じた人間関係づくりもキャリア教育の一環として位置づけ、体系的・継続的な活動ができるように考えて行きたい。</li> <li>生徒会活動の一層の充実を図るとともに、特に地域と関わる活動について、役員以外の生徒が参加できる内容と考え、実践することで、生徒の成長や地域に貢献できる人材育成につなげたい。</li> </ul>
		3-2	生徒会活動を通じた人間形成、集団作り	生徒会活動は活発であり、役員を中心に地域の活動に積極的に参加し活躍することができた。特に、役員が校門前での登校時の挨拶を行なうなど、リーダーシップを発揮する姿が見受けられた。今後は一般生徒の意識の向上をどのように図っていくかが課題であり、生徒会活動をさらに充実させるための力が必要と考えている。次年度は、一般生徒への啓発や町の行事等への積極的な参加を働きかけ充実させていきたい。				
		3-3	クラブ活動を通じた人間形成、集団作り	今年度のクラブ活動では、ハンドボールクラブの北信越大会出場、サッカー部、バスケットボールクラブが初戦突破など、運動クラブが好成績を残すことができた。活動が活発な運動部、文化部は日々の練習に力を注ぎ頑張っていた。しかし、全体的にクラブ加入率が横ばい傾向でもあることから、いかにクラブ加入率を高めていくかが課題である。				
4	保護者・地域に信頼される学校づくり	4-1	PTA活動・保護者との連携の強化	PTA総会時に講演会を一緒に行うことで保護者が大勢参加してもらえよう工夫した。今年度は、「清水まなぶ氏」の話を聴くことができた。また、今年度はPTA研修旅行を何年かぶりに行い、職員と保護者が親睦を深めることができた。保護者に協力いただきたい学校教育活動調査からの保護者の意見を学校運営にいかしていきたい。	2.8	2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>美しい落ち着いた環境づくり、学校行事の一環としてPTA等と連携して庭などの草刈りをしたいかができようか。</li> <li>発表、発起も苦労することではあるが、方向性を見失うことなく継続することは大きな力が必要となる。歩みだしは良好と思うが、更なる躍進に尽力してもらいたい。</li> <li>生徒の大半が町外からであり、早い時期(1年生)に町の特性、魅力等知ること地域住民、企業との連携が図れる。</li> <li>インターンシップの充実により、地元企業との連携を更に加速させたい。一行事に終わらせることなく、日常化に向けて工夫してほしい。</li> <li>工業、農業等大変幅広い産業分野を身近に感じられる坂城町の特性を生かして活用するようお願いいたします。私達も協力してまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA、同窓会だけでなく多くの方に学校の様子を知っていただくために、ホームページの情報の充実や広報活動に力を入れていきたい。</li> <li>PTA主催の各種行事への参加者の増加を図るために、内容の充実や参加型の講演会などの企画を考えたい。</li> <li>各学年で実施するキャリア教育の中で、アサーショントレーニングやマナー講習などを実施し、地域の方々からより一層信頼され、好感を持っていただけるような学校の雰囲気づくりを心がけていきたい。</li> </ul>
		4-2	地域や教育機関との連携強化	今年度は、6月に「坂城高校を発展させる会」を開催し、学びの改革についての話し合いや坂城高校の将来像などについてご意見をいただくことができた。地域・学校関係者と交流は貴重な機会となった。保育体験や就業体験、企業見学では地元団体や企業に協力いただき実施することができた。連携する長野大学や埼玉工業大学では講演会の実施や文化祭への出席などを通して、さらに協力関係を強化することができた。主催者教育で町議会の連携、生物授業で「やがね」大根の栽培なども町の方々と連携をとって実施することができた。さらに多くの場面、多				
		4-3	授業公開の充実	PTA総会時に授業公開・講演会を行い多くの保護者に参加していただけた。2年生のインターンシップ発表会は、「坂城高校を発展させる会」の会員、学校評議員にも案内し多くの方に参観いただけた。今後、更に工夫し多くの方々に参観していただくよう努めたい。				
		4-4	広報活動の充実	今年度は、「坂高プレス」(web)を充実させ教育活動の様子を発信することができた。また、マスコミへのプレスリリースや情報提供、教科の取り組みなどにより新聞へ掲載された。また、希望する中学校訪問を校長・教頭で実施し、本校を理解してもらえよう努めた。坂城高校の教育活動を理解していただくために更に地域への発信の充実を図ってきたい。				

評点は次のように四段階で実施したものの平均値

4十分満足 3やや満足 2やや不足 1不十分